

○大規模地震発生を想定した実践的な防災訓練の実施

9月1日、大規模地震発生後の被災状況調査・情報伝達などの初動活動の充実を図る事を目的として、中部地方整備局総合防災訓練を実施しました。

8時40分に三重県志摩半島南南東沖約20kmを震源とするマグネチュード8.0級の地震発生を想定のもと、直ちに災害対策支部の運営を開始し、港湾施設の被災状況の迅速な把握及び海上緊急輸送ルート並びに使用可能岸壁に関する情報収集・発信などの訓練を実施しました。



事務所内災害対策支部の様子

各職員は、災害対策本部・支部からの付与条件（指示・問い合わせ等）を踏まえ、実際に災害が起こった事を想定しながら「自ら考え行動する」ことを意識して訓練を展開しました。

また、当日は豊橋市総合防災訓練にも参加しました。当事務所では、海上輸送されてきた衣料品・医薬品等の救援物資を当所所属の港湾業務艇「しおさい」により搬送し、耐震強化岸壁（船渡ふ頭3号岸壁）にて岸壁で待機しているトラックに積み替え、陸送する訓練を（社）愛知県トラック協会東三支部とも連携のうえ、展開しました。



救援物資陸揚機込状況

今回の訓練で得られた課題は現在作成中の事務所業務継続計画（BCP）に反映するとともに、防災関係者（港湾管理者、災害協定団体等）とも意見交換等を行いながら課題の改善方を検討していきたいと考えています。

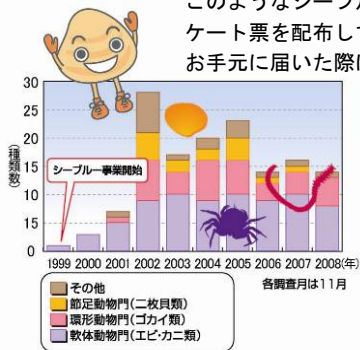
☆お知らせ☆

「シーブルー事業」へのアンケートにご協力をお願いします。

シーブルー事業（海域環境創造事業）とは、海域の環境を改善する事業です。中山水道航路の整備のため、航路を掘ることによって土砂が発生しました。通常このような土砂は、埋立等に利用されてきましたが、中山水道航路から発生する土砂を環境改善に役立てることは出来ないかと、計画当初から模索してきました。

その結果、国と愛知県（建設部・農林水産部）が連携し、三河湾の水底質環境・漁場の改善のため三河湾内39箇所（約620ha）で、土砂を干潟・浅場の造成材料、有機汚泥の覆砂材料として使用しました。このような取り組みを実施した箇所において、その効果を確認するため、水質や底生生物の生息状況を長い期間モニタリングしました。現在では底生生物の種類数も安定しており、特に海の水質浄化にとって重要な役割を担っている二枚貝が多く見られました。

このようなシーブルー事業に対して、三河湾の臨海部に住んでいる皆様方へアンケート票を配布してご意見を伺います。アンケート票は任意に配布されますが、お手元に届いた際にはご協力をお願いします。



生物変化グラフ
干潟創出の効果事例(西浦地区)



西浦地区の人工干潟

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.31)

Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 平成21年度 みなとオアシスがまごおり運営協議会
- 立て干し網と野鳥・魚類観察 ○中華人民共和国交通部一行が三河港視察
- 伊勢湾流域圏一斉モニタリングの実施 ○ちびっ子サマースクール
- 平成21年度 第1回BCP研究会
- 大規模地震発生を想定した実践的な防災訓練の実施
- お知らせ
- 「シーブルー事業」へのアンケートにご協力をお願いします

☆CONTENTS☆

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 平井 洋次



夏も終わり皆さんいかがお過ごしでしょうか。夏休みには色々なところに行かれたことと思います。今は台風季節です。昨年は台風がこの三河には来なかった様ですが、今年はどうなるのでしょうか。

この間、漁船に乗り、「まんが漁」に行ってきました。「まんが漁」とは、鉄のくし状の漁具を海底で引きずって貝や魚を捕る底引き網漁のことだそうです。漁船に乗るのも船に乗って漁をすることも初めてのことでした。

当日は、朝から曇っており、漁をするころには雨が降ってきました。それでも、網を引き上げるたびに大量のシャコがわらわらと入っていて、ほかにもトリガイやエイ、そして車えびも混ざっていました。これらを一つ一つ選別して、エイや小さなシャコは海に逃がしました。

獲ったシャコは、蒸し揚げて、おそらく十数年ぶりですが、おいしくいただきました。シャコの殻の剥き方も教わり、持ち帰って飽きるくらい食べました。

三河湾といえば「アサリ」と単純に捉えていましたが、当たり前のことですが、より多くの生き物が息づいているということを実感しました。そして、この多様な生物が息づく海の保全への取り組みを当事務所でも行っているところです。より多くの生物との共存・共栄へむけて努力していきたいと思っています。

最後に、三河湾では「スナメリ」も泳いでいるところを見ることが出来るらしいのですが、まだ見たことがありません。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

お問い合わせ よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

国土交通省中部地方整備局 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

☆最近のトピックス☆

○平成21年度 みなとオアシスがまごおり運営協議会

8月18日、蒲郡市役所において、平成21年度みなとオアシスがまごおり運営協議会が開催されました。

開会にあたり、同協議会の会長である蒲郡市小林企画部長より「中部地方整備局内にある蒲郡市、沼津市、津市のそれぞれのみなとオアシスが特色を持ち、連携することが重要。これにより、みなとオアシスがまごおりも進化させていきたい。」と挨拶がありました。



蒲郡市役所内での会議の様子

同協議会では、平成20年度の事業実績などの報告があり、また平成21年度事業計画(案)が採択されました。これにより、みなとに賑わいの空間を創出するための多くの事業が開催されることとなりました。

直近では10月4日(日)の17時から「シーサイド・ジャズフェスティバル」が、みなとオアシスがまごおり(海賓館マリンセンターハウス)で開催されます。涼しげな秋の夜に、みなとを眺めながらジャズを楽しむことができます。お問い合わせは、蒲郡市役所 企画広報課 (0533-66-1162)までお願いいたします。



○立て干し網と野鳥・魚類観察

8月22日、豊川河口付近で、立て干し網と野鳥・魚類観察が豊川河口干潟利用促進協議会の主催により開催されました。本観察は国土交通省豊橋河川事務所が行なっている豊川河口干潟再生への取り組みに理解を深め、豊川河口の利用促進を目的として、5月8日に行なわれた豊川河口干潟観察に続き、2回目になります。

豊川と豊川放水路に挟まれた清洲河川敷公園に28名の親子連れが集合して、河口付近まで堤防天端を野鳥観察ながら歩きました。

豊川河口にある干潟において、当日の早朝に設置した立て干し網の中に入り、潮が引いた際に取り残された魚をタモや手づかみで取りました。参加した子供たちはハゼやギマなどの魚を服を濡らしながら夢中で取っていました。



魚取りに熱中する子ども達

○中華人民共和国交通部一行が三河港視察

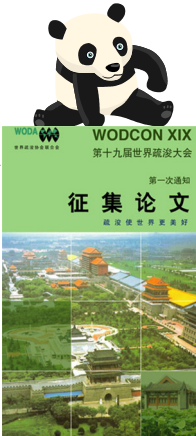
8月25日、中華人民共和国交通部一行(上海)が三河港を視察しました。(独)港湾技術研究所が主催する浚渫土の有効利用に関するワークショップに参加する為に中国の行政関係者、研究者など6名の方が来日しました。中国国内でも河川及び港湾工事で大量に発生する浚渫土の活用方策について議論されており、



船上からの三河港視察

現在、当事務所において実施しているダム堆積土砂やリサイクル材と浚渫土を混合した干潟・浅場の造成材の現地実証試験の結果などを中心に意見交換を行いました。

来年の2010年9月に、世界浚渫会議(XODCON:各国で3年毎開催)が北京で開催されるとのことで、是非、北京に来て三河港での浚渫土有効利用について発表して欲しいとのオファーまで頂きました。



○伊勢湾流域圏一斉モニタリングの実施



船上から採水

CODの測定

※ 8月19日、伊勢湾流域圏一斉モニタリングの開催により、三河港内(神野ふ頭沖合及び汐川干潟沖合)の2地点で簡易水質測定キットを用いてCOD(化学的酸素要求量)とpHの測定及び周辺海域のごみ浮遊などの目視観察を行いました。海の水質が悪くなりやすい夏の時期に一斉にモニタリングを行うことで伊勢湾流域圏全体の環境状態を知ることができます。

当日は晴れ、ほぼ無風の天候で絶好の調査日和でした。なお、海面に浮遊するゴミは無し。COD等の測定結果は以下のとおりです。調査の結果は伊勢湾再生推進会議にて集計し、分析・公表が行われます。

※伊勢湾流域圏一斉モニタリング

伊勢湾再生推進会議(構成団体:国土交通省、海上保安庁、内閣府内閣官房地域活性化統合事務局、農林水産省、林野庁、水産庁、経済産業省、環境省、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市、名古屋港管理組合、四日市港管理組合)が主催。美しく豊かな伊勢湾を再生するためには、流域圏が一体となって取り組むことが大切であり、モニタリングの参加を希望した市民団体、企業、学校等と流域圏の自治体などが、一斉に川や海の水質調査を行うこと。

<測定結果>

	COD	pH	透明度
神野ふ頭沖	2.5(mg/L)	8	2.8m
汐川干潟沖	4(mg/L)	7.5	1.45m

CODのおおよその目安(参考)

0mg/L	きれい
2~5mg/L	普通
5~10mg/L	汚染
10mg/L~	汚染

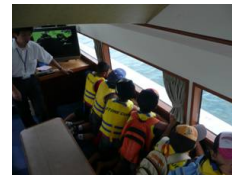
○ちびっ子サマースクール

8月26日、幡豆町生涯学習課主催の「ちびっ子サマースクール」が開催され、当日は東幡豆小学校の児童30名が三河湾に関する学習会、及び当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船し、三河湾の観察を行いました。学習会は東幡豆漁業協同組合の会議室を借り、クイズを出題しながら進めていきました。多くの子ども達が、三河湾の現状、赤潮等についてよく理解しており、海をきれいにするために自分たちができることをよく考えていました。



学習会の様子

三河湾の観察は、2つのグループに分かれて順番に「しおさい」に乗船し、東幡豆漁港を出発しました。船内での様子は、港内見学時間の約50分間、いつもと違う角度から見る自分たちの町や間近で見る大きな船に興奮し、大はしゃぎする子もいれば中には揺れる船に酔ってしまった子もいました。



船内の子ども達の様子

今回の「ちびっ子サマースクール」を通して、海をきれいにするためには自分たちに何ができ、地域として何ができるかよく考え、行動するきっかけとなってくれば嬉しいです。

○平成21年度 第1回BCP研究会

8月27日、三河港の臨海部におけるBCM(事業継続マネジメント)を検討する今年度第1回目のBCP研究会を実施しました。

阪神淡路大震災において、神戸港が多大な被災を受けて以来、みなとにおける防災対策が重要視されており、自動車など国内の産業活動の中心となっている中部地方においても、災害時における産業活動の速やかな復旧を目指すことは大変重要な課題です。当事務所としても、三河港の産業防災対策を検討するため、一昨年より産学官の関係者によりこの研究会を立ち上げました。今年度は研究会を4回実施する予定で、この中で三河港の港湾機能の維持・減災に向けた対応策や被災時における三河港のあり方などを検討していきます。



研究会の様子